

# CAGLIERO<sup>11</sup>

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.40 - 2012年4月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



## 親

愛なるサレジオ会員の皆さん、サレジオ・ミッションの友人の皆さん、

はじめに、私たちの信仰の大なる確信の言葉をもって、皆さんにごあいさつを申し上げます。復活された主は、私たちと共におられます！ 私はヴァルドッコに行くたびに、ピナルディ礼拝堂の復活のキリスト像に心を打たれます。さらに、コッレ・ドン・ボスコの大聖堂に入ると、復活のキリストの大きな像に包まれるかのように感じます！ これがドン・ボスコのキリスト、サレジアン

のキリストです！  
この2012年の復活節、サレジオ会の宣教の文化の柱の一つであるドン・ボスコの招きを皆さんと分かち合いたいと思います：ヴァルドッコの中庭を越えて、その彼方に目を向けましょう！

この招きは、私たちの住む家、学校、教会、管区、国の壁の向こうに、絶えず私たちの注意を向けることを意味します！ カトリックの普遍的な信仰をもって教育することを意味します。世界に向けるこのようなまなざしを、私たちはドン・ボスコから受け継いだのです！

ある短いビデオをお奨めします。「聖霊のワークショップ」(アルド・ジラウド神父SDB脚本、1999)です。これはヴァルドッコのドン・ボスコが使った部屋を紹介するガイドとして制作され、YouTubeで

見ることができます (<http://www.youtube.com/watch?v=bwSv4WbjpNM>)。ヴァルドッコの部屋の窓から、ドン・ボスコのまなざしは中庭や教会の彼方を見つめていました。彼は世界の若者たちのことを夢見ていました。彼らの呼びかけに答えようとする開かれた心、育成される必要性、友情への希求を見ます。ドン・ボスコはすべての民の母なる教会に、その救いの使命に、目を向けます。彼はイエスの命令の緊急性を感じ取ります。「全世界に行き、造られたすべてのものに福音を宣べ伝えなさい。」

ドン・ボスコ生誕200周年を準備するこの一年目、ドン・ボスコの生涯とその人となりや宣教の視点から知るよう、皆さんに呼びかけます。それは、私たちの共同体、信徒・協働者、若者たちのうちに宣教の文化を育む助けとなるでしょう！

*Vedran Clement*

宣教顧問

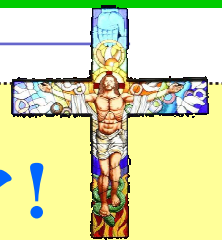
ヴァツラフ・クレメンテ神父



## アフリカからやって来た宣教師： すべての人への宣教missio ad gentesの実りのしるし！

「アフリカの巡礼する教会もまた、世俗化の進んだ国々での新たな福音宣教に貢献するよう呼ばれています。この国々は、かつて数多くの宣教師を送り出しましたが、今日、残念ながら司祭職と奉獻生活への召し出しが少なくなっています。一方、主のぶどう畑で働くように(マタイ20・1-16)との収穫の主(マタイ9・37-38)の招きを、実に多くのアフリカの男性、女性たちが受諾しています。アフリカの司教たちは、それぞれの国で、そして実に大陸全体ですべての人にad gentes福音を告げる宣教の熱意を弱めることなく、召命に不足する国々の兄弟司教の要請に惜しみなく応え、司祭のいない信徒を助けなければなりません。宣教師を派遣する国と受け入れる国との間の合意によって進められるこのような協力の形は、すべての人への宣教missio ad gentesの実り豊かさの具体的なしるしとなります。この協力は、よき牧者である主(ヨハネ10・11-18)の祝福を受け、古くからキリスト教的伝統を培ってきた国々の新たな福音宣教のために、価値ある支えをもたらします。」

教皇ベネディクト十六世



「カリエロ11」の読者の皆様、祝福のうちに復活祭をお迎えください！

## キリストはまことに復活された、アレルヤ！

# オーストリアの皆さん、神をたたえて歌おう 同じ愛のメロディーを、新しいリズムで!



## 私

が修練期のとき、スペインの一人の管区長が修練院を訪れ、スペインの状況、召命が少ないことを話してくれました。私は思いました。「自分たちは二つの管区に22人の修練生がいる。3人から5人くらいスペインに送ったらどうだろう、再出発を助けるために。」しかし、まもなくそのことを忘れてしまいました。アレンチェリー神父様が訪ねて来るまで。アレンチェリー神父様は、会が宣教のために必要としていることを私たち60人の修練期後の会員に話しました。第26回総会の開催中、私はベトナムの管区長によるポナノッテを読みました。管区長は、ドン・ボスコの事業を継続させるために立ち向かわなければならない困難について語っていました。これを読んで、私は自分の院長と話そうと決心し、後に管区長とも話しました。

二人の許可を得て、私は宣教地への派遣を希望する志願書を提出し、総長は私をオーストリアへ送りました。宣教師になる決心をするのは、確かにやさしいことではありませんでした。自分もとの管区ATEと兄弟会員たち、私の家族、そして典型的なアフリカのサレジオ会のダイナミズムを思いました。しかし、神が呼ばれるとき、呼びかけに背を向けることはできませんでした。

ローマとトリノで行われた新宣教師研修コースは、新しい世界の新しい文化の中で新たな現実に向き合う準備をさせてくれました。良い時も悪い時も経験しながら、このコースで学んだことを思い出します。時々、その授業で予告されたことが本当に起きると、思わずニヤリとしてしまいます。前もって警告されれば、前もって備えることができます!

でもやはり、祈りの中で力をもらいます。兄弟会員たちも、もう一つの大きな柱です。兄弟たちは愛と理解をもって私がしっかりと立てるように、新しい文化、新しい管区に慣れるまでの辛い時を乗り越えられるように助けてくれました。

「全世界へ行きなさい……」。オーストリアの宣教師として、私は自分が福音の担い手だと思います。同じ愛のメロディー、それを新しいリズムで歌おうと神様の子どもたちに呼びかける人です。おもしろい“リミックス”でしょう! 若者たちがこちらへ来なくなったのなら、私たちの方から彼らの方へ行かなければなりません。私たちが若者に会いに行くとき、若者たちに会いに行くのはドン・ボスコなのです。自分がもう一人のドン・ボスコだと考えると、若者たちと出会う力になります。アフリカ人のドン・ボスコに、みんな驚きます。でもそれは、新たな友情を築く良い機会になります。

兄弟会員皆の愛と支えを受けて、異国だったオーストリアは今、私にとってますます故郷になりつつあります!



カメルーン出身、オーストリアの宣教師 サンプリス・チューンガン神学生



## サレジオ会の宣教の意向

### 司祭職の養成を受けているアフリカの若いサレジオ会員のために

アフリカの司祭職を目指すサレジオ会員たちが、羊のためにいのちを捧げるよい羊飼いキリストの、まことの弟子として成長できますように。

主は、アフリカ大陸の多くの若者を奉獻生活と司祭職へと召し出しておられます。現在、アフリカには数箇所にサレジオ会共同体があり、ルブンバシ(コンゴ民主共和国)、ナイロビ(ケニヤ)、ヤウンデ(カメルーン)の三つの神学教育機関で司祭職を目指して学ぶ150人の会員がいます。司祭職を目指す会員たちが、羊のためにいのちのすべてを差し出す良い羊飼いキリストに、真に従う者として成長するよう祈ります。

